

笑顔広がる！まつやま応援寄附金の活用について(ご報告)

◎ 令和7年度にお寄せいただいた寄附の実績

件数 172,838件 金額 2,650,410,005円

◎ 寄附金の使い道について

各項目ごとに活用させていただいた事業の概要を記載していますので、ご覧ください。



1. 安心・安全な子育て環境の充実と整備のために 件数 84,912件 充当額 1,280,563,405円

○ 不妊治療・不育症検査助成事業

子どもを持ちたいと望まれるご夫婦の経済的負担の軽減を図るため、不妊検査や不妊治療の費用に対して、助成を行いました。また、不妊・不育に関する様々な悩みや不安に寄り添うため、専門相談窓口を設置し、助産師や保健師が相談に応じました。令和7年度は、不妊検査・不妊治療として延べ1,051件の助成を実施しました。

○ 妊娠・出産支援事業

「こども家庭センターすくすく・サポート」に保健師等が常駐し、母子健康手帳交付等の諸手続や育児・栄養相談など妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援をしています。令和7年度は14,447件のご利用がありました。

・生後4か月までの赤ちゃんがいる家庭を訪問し、子育て情報の提供や育児の不安や悩みへの助言等を行っています。令和7年度は2,662件の訪問を実施しました。

・出産後のお母さんと赤ちゃんのケアや育児支援を行う産後ケア事業を実施しています。令和7年度は延べ660人のご利用がありました。

○ 子ども医療助成事業

子育て家庭の経済的負担を軽減し、子どもの病気の早期発見・治療を支援することで、子育て環境の充実を図っています。現在、18歳年度末までの入院・通院費を助成し、約70,000人の子どもに受給資格証を交付しています。



保健師が赤ちゃんがいる家庭を訪問しています。

2. 健全で豊かな心を育む教育のために 件数 8,810件 充当額 135,884,300円

○ 学校・家庭・地域連携協力推進事業

地域の方々の協力を得て、放課後等に子どもたちに勉強やスポーツ・文化活動などを行う放課後子ども教室(市内29教室)や登下校の見守り、授業の補助など学校に対する多様な協力活動(市内5地区)を実施しました。令和7年度は、年間27,219人の地域住民が参画しました。

○ 教育の情報化推進事業

GIGAスクール構想のもと、教育に関するICT環境整備や活用等に関する研修を充実させ、児童生徒の情報活用能力の育成、校務DXを通じた働き方改革及び、教員のICT活用指導力の向上を目的に、教育の情報化を推進しました。令和7年度は全ての小・中学校で授業中にICTを活用して指導しています。



端末を活用した授業の様子

3. 魅力ある農業・観光の振興のために 件数 23,704件 充当額 376,908,900円

○まつやま農業未来人材投資事業

- ・新規就農者の園地にて、栽培管理作業の手本を見せながら丁寧な指導を行い、就農希望者には、環境に配慮した栽培や農業DX機器を使った実習等を行いました。令和7年度は延べ470回新規就農者等へ指導を行いました。
- ・作業の負担軽減や生産性の向上に繋がる農業DX機器の体験研修会を実施し、機器導入の後押しを行いました。
- ・農薬や化学肥料の減少に関する実践的な研修を13回行いました。



新規就農者の現地指導

○国際観光客誘致促進事業

台湾、韓国、中国などの外国人観光客を誘致するため、海外の旅行会社向けに、松山の魅力を発信するプロモーション活動を行ったほか、中央商店街にまつやまインバウンドボランティアガイドを配置し、外国人観光客のお困りごとに対応することで、満足度向上につなげました。

令和7年の外国人観光客数は推定で744,500人となりました。



ボランティアガイド
活動様子

○道後温泉活性化事業

令和7年度は、アーティストの蜷川実花氏とクリエイティブチームEiMを招き、10月10日からアートプロジェクト「蜷川実花 with EiM × 道後温泉 DOGO ART」を開催しました。道後温泉本館の歴史的や文化的な価値に加え、他の温泉地になく、新しい観光資源になった「アート」を生かし誘客や創客に繋げました。

また、産官学が参画する持続可能な道後温泉協議会では、上人坂を中心に各種イベントを実施しました。

令和7年度は、824,819名が道後地区に宿泊しました。



飛鳥乃温泉中庭インスタレーション



道後・上人坂の交流拠点「ひみつジャナイ基地」

4. 文化やスポーツで魅力あふれるまちにするために 件数 5,084件 充当額 85,605,600円

○ことばのちからイベント事業

正岡子規や夏目漱石と縁の深い松山ならではの豊かな文学的土壌を生かし、俳都松山の夏の風物詩「俳句甲子園」や「ことば」をまちに掲出する「街はことばのミュージアム」など「ことば」をキーワードとした取り組みを行い、「ことばを大切にするまち松山」を国内外へ広く発信しています。

「俳句甲子園」には30都道府県79校94チームからエントリーがありました。

○文学賞運営事業

新しい青春文学の創造と本市の文化的イメージ向上のため、近代俳句の祖・正岡子規を生み、近代小説の文豪・夏目漱石の小説『坊っちゃん』に描かれたまちという豊かな文学的土壌を生かし、平成元年の市制100周年を記念して青春文学小説の募集を開始しました。

これにより、「ことばと文学のまち松山」の全国発信とともに、小説『坊っちゃん』のまちとして市民の誇りや愛着を醸成することにつながりました。

令和7年度は、全国47都道府県に加えて海外14か国からも作品が寄せられ、9,900点の応募がありました。



第22回坊っちゃん文学賞表彰式



第28回俳句甲子園全国大会

○スポーツイングシティまつやま推進事業

スポーツを通じた交流人口の拡大や地域経済活性化を図るため、地域に密着したプロスポーツ(愛媛FC、愛媛マンダリンパイレーツ、愛媛オレンジバイキングス)の支援事業やプロ野球公式戦を誘致しました。スポーツと触れ合う機会を創出するとともに、今後の交流人口拡大による地域経済の活性化につなげることができました。令和7年度のプロスポーツ集客数は179,374人でした。

○社会体育振興事業

- ・スポーツ推進のために、四国大会以上の大会で優秀な成績を収めた選手指導者に対し「まつやまスポーツ笑顔大賞」を表彰しています。
- ・松山市を代表して全国大会に出場する小中学生を激励するため「体育大会出場激励金」を交付しています。令和7年度は601名に交付しました。
- ・第37回トライアスロン中島大会を開催し、395名の出場者が熱いレースを繰り広げました。



第37回トライアスロン中島大会の様子

5. 誰もが健康で生き生きと暮らす地域の実現のために 件数 8,286件 充当額 123,719,600円

○障害福祉サービス事業

障害者総合支援法に基づき個々の障がいのある方々の障がい程度や勘案すべき事項等を踏まえ、居宅や生活介護事業所等での介助サービスや、グループホーム、就労継続支援事業所での訓練等の支援を行っています。また、児童福祉法に基づき、原則18歳未満の障がいのある方々の社会生活への適応性の基盤を形成するため、児童発達支援事業所や放課後等デイサービス事業所等で支援を行っています。また、この支援が、障がいのある方が、地域で生き生きと暮らしていくための支えとなっています。令和7年度は障害福祉サービスを6,655名、障害児通所給付を3,061名にご利用いただきました。

○高齢者離島生活支援事業

シルバー人材センターなどの事業者と協力し、離島で生活する高齢者が安心して暮らせるよう、買い物支援や介護認定を受けていない方へデイサービスの実施など、様々な支援を行っています。

これらの取り組みを通して、高齢者の見守りや外出機会の創出、健康維持など住み慣れた離島で安心して暮らせる環境を整備しています。

令和7年度は買い物支援利用者数が983名、ミニデイサービス利用者数が463名でした。



ミニデイサービスの様子

6. 豊かな自然・環境を次世代に引き継ぐために 件数 15,068件 充当額 220,376,000円

○ゼロカーボンシティ松山推進事業

2050年カーボンニュートラルの実現に向け、令和7年度は太陽光発電システム42件、住宅用蓄電池システム348件の設置補助を行いました。

また、オフサイトPPAで松山城などの市有施設に再エネ電力を供給しています。

そのほか、「まつやま環境フェア」に5,395名の方に来場いただき松山市域の温室効果ガスの削減及び脱炭素ライフスタイルへの転換を進めることができました。

「サマー！エコキッズスクール」
森の探検の様子



○環境教育啓発推進事業

環境啓発施設「りっくる(まつやまRe・再来館)」での体験講座や小学生4～6年生を対象とした夏休みの「サマー！エコキッズスクール」、市が認定した市民講師「松山市エコリーダー」を学校や公民館等に派遣するなど、市民の環境保全意識の向上に努めました。

令和7年度は5,503名の方に環境学習会に参加いただきました。

○浄化槽対策事業

水質汚濁防止と公衆衛生の向上を目的として、合併処理浄化槽の維持管理費への補助や適正な維持管理方法に関する指導・啓発を行っています。

維持管理補助金は、公共下水道が未整備の地域で、10人槽以下の合併処理浄化槽を適切に維持管理している浄化槽管理者を対象に8,000円/年として交付しています。

令和7年度の合併処理浄化槽維持管理費補助基数は18,688基となりました。

7. 災害等に強い安心・安全なまちをつくるために 件数 8,404件 充当額 125,798,100円

○対策本部運営事業

災害対策(警戒)本部の設置及び運営を円滑に実施し、被害情報の共有や被害対応の迅速化並びに気象情報などの収集・伝達を行い、市民の生命、身体及び財産を保護し、被災者等の市民生活の早期安定を図っています。令和7年度は、災害警戒本部を2回設置しました。



図上型防災訓練の様子

○ 農林土木災害復旧事業

農林生産活動の維持と農業経営の安定を図り、国土の保全と農村地域の安定性を向上させるため、令和5年6月30日から大雨及び令和6年11月2日の大雨により被災した農地及び農道やため池などの農業用施設等を早期に復旧しています。令和7年度は328箇所の復旧が完了し、4箇所の作業を継続しています。



着工前

→→ 復旧 →→



完成

○ 公民館施設マネジメント事業

老朽化した公民館を計画的に改修を行っています。地域の人が利用しやすいようにバリアフリー化を進め、また、災害時には避難所として安心して利用できるように施設設備も行っていきます。

令和7年度は久米公民館・体育館長寿命化改修工事、三津浜公民館改修工事 等を行いました。



改修後の久米公民館



改修後の久米公民館体育館

8. 大好きなまつやまのために 件数 11,814件 充当額 197,942,600円

○ 待機児童対策・保育の質向上事業

待機児童対策や保育の質の向上を目的とし、4月に1、2歳児の定員を超えて受け入れている施設や入所予約制の導入、加配保育士に対する助成、障がい児保育を担う保育士への助成等を行いました。

令和7年度は1、2歳児2,995人の入所を目標とし、結果として3,009人が入所できました。



保育の様子



○地域振興構想推進事業

- ・三津浜地区：空き家・古民家の活用
空き店舗・空き家の所有者と借り手のマッチングを図り、令和7年度は15件のマッチングがありました。
また、三津ふ頭で中四国最大級の「みつはま蚤の市」を初開催し、約16,600人が来場しました。



みつはま蚤の市

- ・久谷地区：地域資源の活用
豊かな自然が育む農作物のほか、四国遍路や日本三大狸伝説の物語性などの地域資源を活用したイベント「OSETTAIマルシェ」を初開催し、約500名が来場しました。



OSETTAIマルシェ

○独居高齢者みまもり員設置事業

市内の独居高齢者が安心して暮らすことができるよう、独居高齢者の実情を把握し、みまもり員が定期的に自宅を訪問し声かけ等の安否確認を行います。
これにより独居高齢者の不測の事態を防止し、高齢者の福祉の増進に努めています。
令和7年度は403人のみまもり員が延べ45,368回の訪問を実施しました。

9. SDGs未来都市松山こども夢ファンド 件数 1,980件 充当額 28,487,500円

○里島振興事業

- ・里島を体感できる体験イベントを実施している「まつやま里島ツーリズム連絡協議会」の活動など、島ならではのツーリズムを推進するための支援を行いました。
令和7年度は48の体験イベントを開催し、計7,993名にご参加いただきました。
- ・島嶼部男性の出会いのきっかけを創出するイベントを開催し、12組のカップルが成立しました。
- ・里島定住促進施設や空き家バンクの運営など、島嶼部への定住促進に取り組みました。
令和7年度は、里島定住促進施設に6世帯が新規入居され、うち3世帯は退去後も定住されています。
- ・島民などを対象に通勤・通学の定期運賃等の一部を補助し、里島への定住促進や活性化を図りました。
令和7年度は、99名へ通勤・通学の補助を実施しました。



里島定住促進施設(ハイムインゼルごごしま)



里島めぐり・中島サイクリング

○産学官まちづくり事業

産学官で第7次松山市総合計画の将来都市像を共有し、官民が協力して課題解決に取り組むことで、新たな価値を創出し、持続可能な地域の実現を目指す組織「まつやま未来コネクト」の活動を支援しました。また、SDGsを意識した行動を地域に広げるため、研修を受けた大学生を松山市SDGs推進コンダクターに認定し、小学校低学年向けの授業の講師として派遣しました。

令和7年度は30校に松山市SDGs推進コンダクターを派遣しました。

SDGs推進コンダクター 授業の様子



○ 修学旅行誘致促進事業

- ・平日の団体旅行者の確保や将来のリピーター化を目指して、修学旅行を誘致するための営業活動などを行っています。
 - ・戦略的に効果的な誘致ができるエリアを重点エリアとし、学校関係者や旅行会社に、旅のルートや素材を提案しています。
 - ・特別支援学校の修学旅行のサポート内容を充実することで、誰もが安心して旅行を楽しめるまちを目指しています。
- 令和7年度は、90校、14,855人の修学旅行の受け入れを行い、そのうち8校、196人は特別支援学校の方々に来ていただくことができました。



中島みかん狩りの様子

10. 若者が愛着や誇りをもてるまちにするために 件数 4,991件 充当額 75,124,000円

○松山野球拳おどり事業

真夏の一大イベントとして市民に憩いの場を提供するとともに、交流人口の拡大や市内中心部の活性化を図ることを目的に、「松山野球拳おどり」を開催しています。また、出前教室などの普及・広報活動を通して市民の皆さんのまつりへの参加を促しています。令和7年度は、3日間で約132,000人の観客動員を記録しました。



野球拳おどり 市役所連

○移住定住促進事業

松山に新しい人の流れをつくるため、SNSなどによる情報発信に加え、移住後の生活をイメージしてもらう移住体感ツアーを実施したほか、若者を対象に交流会を開催し、移住検討者に松山の暮らしの魅力を紹介しました。また、地元学生で結成するプロジェクトチーム「マツワカ」は、地元企業と連携した商品開発や、若者を対象としたイベントを通じて、市内外の若者に松山の魅力を発信しました。県外から松山市へ3,298人の移住につなげたほか、若者のシビックプライドの醸成を図ることができました。

移住体感ツアー

若者交流会

マツワカ



○愚陀佛庵整備事業

夏目漱石と正岡子規がともに暮らした唯一の場所「愚陀佛庵」を再建するため令和7年度に事業を始めました。「文学のまち」「俳都松山」の新しい魅力を発信し、にぎわいを創り出すとともに、子どもから大人まで幅広い世代が交流できる拠点を目指し、整備工事を実施しました。そして、翌年の令和8年7月24日に無事オープンすることができました。

愚陀佛庵(全体)



1階和室

